

四島のかけ橋

第50号
平成24年1月1日
(日曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県民会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-1111 内線3618
発行人 綾井 祐一

第27回県民大会を開催

大会宣言を満場一致で採択

北方領土返還要求運動神奈川県民会議(会長 持田文男 神奈川県民会議議長、加盟団体五十団体)は、平成二十三年十一月八日(火)、横浜市中区の「横浜情報文化センター」情文ホールにおいて、第二十七回北方領土返還要求運動神奈川県民大会を開催しました。

大会には、会員をはじめ 和六十年結成以来二十七年百七十七名が参加し、主催者にわたる活動への敬意と今者として持田会長が挨拶を行いました。その後、来賓として黒岩祐治神奈川県知事と独立行政法人北方領土問題対策協会の間瀬雅晴理事長から、当県民会議の昭

ル展など、平成二十三年の活動状況について、報告がありました。また、白石副会長(連合神奈川県)が、昨年八月十八日から二十一日まで、北方四島交流訪問事業に参加し、国後島と択捉島を訪問したことから、現在の島の様子や在住しているロシア人との交流などについて、写真を交えて報告が行われました。

記念講演は、元島民で択捉島出身の三上洋一氏から「北方領土の早期返還を求めて(元島民の声)」という題で、報告が行われました。

2月7日(火)は

「北方領土の日」

一八五五年の二月七日「領土の日」と定められまし(旧暦では安政元年十二月二十一日)、伊豆の下田において日露通好条約が調印された。この条約で日露両国の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確にされたのです。

そうした経緯を踏まえて、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るため、昭和五十六年一月六日の閣議了解で二月七日が「北方領土の日」と定められまし

また、本年も二月七日(火)に、東京都新宿区の日本青年館で、「北方領土返還要求全国大会」が開催されます。



「北方領土の早期返還を求めて(元島民の声)」

(講演要旨)

元島民・択捉島出身 三上 洋一氏

北方領土問題は、未解決のまま六十六年が経過し、この間に国内では四島一括返還論から二島返還論まで、さまざまな議論が出ています。そこで、北方領土問題とは一体何なのか、論点を整理し、元島民の立場から見た北方領土問題の発端と本質、返還への道筋について、島民としての願いも含めてお話ししてみたいと思います。

日露交渉の現状

まず、日露交渉の現状から振り返ってみましょう。北方領土問題が未解決のまま戦後六十六年、ベルリンの壁が崩壊して、ソ連が

ロシアとなつてからちょうど二十二年が経過しましたが、隣国であるロシアとは、平和条約が締結されていませんので、国際法上、厳密な意味では戦争状態が終結していません。これは、法と正義に基づいて解決されなければならないというところまでは日露首脳会談でも一致していますが、北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結するとい

う一九九三年の「東京宣言」からはむしろ後退しているというのが実情です。結局、この宣言を出発点とする以外、道はないと思われま

次に、日露間で領土問題を解決し平和条約を結ぶた

灯台

推進委員報告(その三)

十一月八日に神奈川県民大会が開催され、白石俊雄県民会議副会長より八月に訪問した国後島、色丹島視察の報告をいただきました。国後島では飛行場が整備されインフラが進んでいる様子がありました。

副会長が参加された北方四島交流事業では、今まで小さな船舶で行き来しており狭い船室で雑魚寝状態でしたが、今年新しい船舶が調達でき、大きさも従来の船舶四百八十トンに比較して倍以上の千五百トンになりました。船名は公募の結果「そとびりか」と名付けられました。今年の交流事業からは現在よりは快適な船の旅になりそうです。

その後、記念講演として元択捉島民の三上洋一さんから当時の様子を詳しくお話いただきました。当時は、水産業が盛んで三上さんのお祖父さんが島で大きな水産加工会社を営み、豊かな生活をしていただけたこと、会社の写真など貴重な資料を見ることができまし

料を見ることのできた。県民大会の他にも、今年度の国の取組みとして北方領土問題を若年層に広く伝えることを目的に主要都市で「ナルホド!学べる日本とロシア」のイベントが開催されました。神奈川県では十一月三日みなどみらいクイーンズスクエア横浜で開催されました。ロシアでは日本食が好まれていること、日本のアニメがロシアの若者に人気があることなどを紹介するビデオの上映、また神奈川県立外国語学部国際文化交流学科の堤教授や小林特任准教授からは、神奈川県立大学が学術交流協定を締結したロシアのアストラハ

通常は、敗戦後に、進駐、保障占領、平和条約締結へと進むこととなりますが、その道筋が、軍事占領、強制送還、不法占拠へとそ

め、何が障害になつてきたのかを検討してみたいと思います。まず、手順として、敗戦から平和条約締結に至る通常のルートを確認し、それに照らして、北方領土問題では、何が不法で、何が障害であるのかを見定めて、それを取り除くにはどうすればよいのかを考えてみましょう。

結論を先に言えば、国際法と元島民の立場から見た推薦シナリオは、保障占領の状態に戻す「占領状態復



「ナルホド!学べる日本とロシア in 神奈川県」 盛況だったステージイベント

迎春

2012

「元論」になります。「過ちを改めざる、これを過ち」という」とい論理です。具体的には、元島民帰還ですが、年月が経ってしまっているので、元島民相当数一万七千三百人を島に住ませ、戦後の疑似占領状態を作り出して、そこから平和条約締結への道を歩もうという事です。結果的には、これは、「混住論」につながります。

ソ連が不法を働いたのは、領土の不法占拠だけではありませんでした。最初の占領の仕方が国際条約違反でした。北方領土問題は、安藤石典根室町長のマッカーサー元帥への請願に始まると言われていますが、

「元論」になり、ソ連は、「保障占領にあらずして軍事占領を為し」と、はっきりそのことを述べています。保障占領は、停戦や終戦時に行われる占領で、特に戦後占領は、平和条約締結に至る道筋を保障するための占領ですから、交戦時のように、住民の自由を強奪し、本土との交通・通信を遮断してはならず、再建国の復興に役立つ施策が行われなければなりません。しかし、



盛り上がった県民大会

「保障占領にあらずして軍事占領を為し」と、はっきりそのことを述べています。保障占領は、停戦や終戦時に行われる占領で、特に戦後占領は、平和条約締結に至る道筋を保障するための占領ですから、交戦時のように、住民の自由を強奪し、本土との交通・通信を遮断してはならず、再建国の復興に役立つ施策が行われなければなりません。しかし、

いつか“を”今“に”。日本の国土、北方領土

平成23年度北方領土に関する標語 〈最優秀賞〉 東京都八王子市 塚本沙弥氏



三上洋一氏
プロフィール

昭和十二年、択捉島留別村に生れる。父・三上一郎は留別郵便局長。昭和二十年、小学校二年で終戦を迎え、昭和二十年から二十二年九月まで、二年間ソ連人と混住。昭和二十二年、本土送還。樺太・真岡の収容所を経て函館上陸。北海道大学農学部卒、農学博士(東京大学)

「北方領土パネル展 2012 IN かながわ」開催

- 日時 平成24年2月14日(火) 12:00~17:00
15日(水) 9:00~17:00
16日(木) 9:00~15:00
- ※全日入場無料
- 場所 かながわ県民センター1F 展示場
- 内容 パネル41点他を展示・ビデオ上映・北方領土返還の署名等
- 主催 北方領土返還要求運動神奈川県民会議

編集後記

◇十二月八日、七十年前のこの日真珠湾攻撃が行われ、この日から日本は戦争に突入していきま。一九四一年十一月二十六日、択捉島の単冠(ひとかつぶ)湾から出発した事実をニュースなどでは報じられませんが、県民大会で当時の様子について、三上洋一さんから詳しい説明がありました。択捉島は日本の島なのです。今号で「四島のかけ橋」も五十号を迎えます。昭和六十二年七月の創刊から四半世紀近くが経ちましたが、返還への道のりはまだ続いています。今後ともよろしくお願いたします。